

“甦る元寇の船” が文部科学大臣賞を受賞！



海底で調査する琉球大学 池田栄史教授



鷹島沖で発見された船体の一部と陶器の破片など

公益財団法人日本科学技術振興財団などが主催する第54回科学技術映像祭で、報道部の今林隆史記者が制作した『甦る元寇の船～神風の正体に迫る～』（2012年12月31日放送）が準グランプリに相当する文部科学大臣賞を受賞しました。4月19日（金）に表彰式が行われます。今林記者は2009年に『黒い樹氷～自然からの警告～』でグランプリにあたる内閣総理大臣賞、2012年に『風を集めて“レンズ風車” 未来への挑戦』で文部科学大臣賞を受賞していて、三度目の受賞です。

今林記者は数年前から長崎県・鷹島沖の伊万里湾の海底で、元寇の船の発掘に取り組んでいる水中考古学の研究者を取材していました。一昨年秋の本格的な海中発掘に合わせて、大阪の毎日放送（MBS）の協力を得て潜水取材班を事前に準備。自らも潜って撮影しました。

水深約20メートルの海底には、竜骨をはさんで板が規則正しく並んでいて、当時の船の底の部分と見られる。厚い泥に埋もれていたため木材が腐らず、水中で700年以上経っても残っていたと考えられています。元寇当時、アジアを席卷していた元の軍船の構造を復元できる可能性がある歴史的な発見です。

※科学技術映像祭

優れた科学技術に関する映像を選奨し、科学技術の普及と向上を図ることを目的とするものです。科学技術週間の制定と軌を一にして昭和35年から始められ、日本で最も権威のある科学技術の映像祭との評価を受けています。